



# 「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第49号

令和4年6月10日

## 小中一貫教育の会(北糀谷小にて)

6月8日(水)の午後、北糀谷小学校を会場に、糀谷中学校と本校の先生方が集まり、北糀谷小学校の先生方の授業を参観の上、協議をする時間をとりました。授業を参観させていただいた北糀谷小の先生、誠に感謝でございます。私は、人権教育部の4年生の特別活動の授業を中心に参観いたしました。学級会です。よく準備を子どもたちがし、主体的に取り組んでいる、為すことによって学ぶ授業であったと感じました。



小中一貫教育は、子どもの義務教育期間9年間をつないで一貫して考えていることから、とても重要なものであります。小学校と中学校という6・3製の制度に慣れ込みついている我々は、なかなか適応するのに苦労している方もいるのではないのでしょうか。小と中の文化の違いなど確かにバリアになるものもありますから。

私は、経験上(この経験を話すとき長くなるので、省略)、9年間の小中一貫教育は重要であると考えています。可能なら、就学前の幼児期3年間を入れ、12年間の幼小中一貫教育として考えたい

くらいです。東京都は、小学校から高校までの12年間の都立学校を創りました。地方における、子どもが少なくなったために、小中を統合するのは違う状況から生まれた学校です。運営環境に迫られた選択ではないので、小中高一貫教育の教育的な見地に立っての設立と言えます。今述べたことは校種縦断の視点ではないのでしょうか。また、教科横断の視点も大事だと思っています。小学校の文化、中学校の文化があろうが、授業においてはそれは関係なく、本質は同じと言えます。授業では、子どもが「分かる」ということが大事だと思います。そして、子どもの「分かる」授業のための教材研究を大切にしたいものです。例えば、中学校では、教科担任制ですから、教科が異なる先生には授業のアドバイスができないと考える先生がいます。先にも述べた通り、授業の本質は同じです。もちろん、専門性については担当の先生には追い付きませんが、指導法の部分は、子どもが「分かる」という本質を大事にして語り合えるところとなります。小学校の先生も中学校の先生に対して、いろいろな意見を言えるところとなります。一授業において、育成すべき資質・能力を育てるための「目標」と「内容」は変えてはいけませんが、「指導法」は変えてもいいのですから。

今回の小中一貫教育の会では、こんな大事なことを語り合える大事な時間となりました。北糀谷小学校の先生方の授業を見て、本校の先生方もたくさんの参考となりました。授業の展開を見て、教科書を読み込んでどれだけ楽しくこなすかがためられていると思います。そして、小中一貫教育の最終目的である、個性の伸長につなげて行きたいと思いました。

**進取の素 学級経営に役立つ格言 49 時には曖昧さに寛容であれ**